

「中国残留孤児の父」と慕われた故山本慈昭さん（一九〇二―一九〇年）の生涯を描く映画「望郷の鐘―満蒙開拓団の落日」が、まもなく山本さんのゆかりの阿智村でクラシック・イン（撮影開始）する。村では映画制作支援実行委員会も組織され、ロケ地でのセット建築のほかエキストラバンクの登録者募集、山本さんをしのぶ写真展開催など村をあげて盛り上げを図っている。

撮影開始は二十四日が予定され、それまでは場所を明らかにできないが、村内のある所でやぐらや学校建物などセットの建築が進んでいる。技術を提供しているのは村内の建築大工さんら九人でつくる「阿智建築組合」。野村和男組合長によると「今年になって制作者側から、地元でセット造りができないかと打



須田唯仁記者

阿智で映画ロケ

「望郷の鐘」村ぐるみ応援

診があり、本業とは少し違う。また山本さんが全く違う地形。「どんな撮影作業だが協力を決めた」とい開拓団で勤めていた小学校の技術で、満州の地を表現する建物外壁部分や井戸、板塀なのかも楽しみ」と大工さんの一人は、興味深そうに話した。阿智村昼神温泉郷にある熊谷元一写真童画館では、三十



ロケ現場で進むセットの建築工事
山本さんの足跡をたどる写真展―いずれも阿智村で



懐かしい写真を鑑賞した元村中央公民館長で、山本さんと親しく話をしたこともあった小野国明さん（セ）は「阿智が生んだ偉人を、全国に紹介してくれるのは本当に光栄。素晴らしい映画になると思う」と楽しみにしている。村での撮影期間は二十四日から八月十五日。村はボランティアエキストラで撮影に参加できる人を年齢不問で募集している。撮影の設定は終戦の一九四五年の開拓団。男性は短髪で着古した白ワイシャツ、女性はノーメイクで同じく長袖ブラウスなど、質素ないでたちとなるが、この機会に映画出演を希望する方は、ぜひ応募を。一次締め切りは七月二十五日。村中央公民館で受け付けている。

なんしん見聞録

